

第8回

(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画

策定検討委員会

会議録

《要約版》

事務局 多可町生涯学習課

第8回(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画策定検討委員会 会議録

- 日 時 令和3年12月2日(木) 午後7時～午後8時30分
- 場 所 多可町役場 大会議室
- 出席者 20名/24名(敬称略)
- ・委員長 小嶋 明
 - ・副委員長 宮崎 和明 松本 壽朗
 - ・委員 熊田 正博 大上 和徳 南畝 香野子 吉田 忠雄 門脇 昌弘
布一 和也 清水 賢彦 遠藤 ひとみ 殿井 瑞穂(代理:吉田宏之教頭)
岡本 美紀 吉川 清 芦田 伸吾 杉本 真 山本 和樹
山本 早希 萬浪 佳隆 近藤 なぎさ
- ・事務局 地域共生担当理事兼ふくし相談支援課長 藤原 正和
生涯学習課 課長 檜本 一郎
生涯学習課 副課長 梅田 一志
教育担当理事兼教育総務課長 藤本 志織
教育総務課 図書館長 畑中 俊裕
教育総務課 図書館司書 依藤 啓子
- 議 事 (1)次第3 議事(1)建設基本計画 答申書について
(2)次第5 今後の予定について
(3)答申
- 会議結果 (1)建設基本計画の答申書(案)について、各委員が意見を述べ修正を検討しました。
(2)今後の予定について、事務局から説明を行いました。
(3)委員の代表者が、答申を町長へ手渡しました。
(4)答申書の完成を踏まえ、各委員から感想をいただきました。
(5)町長が、委員会に対しお礼とこれからの多可町の生涯学習に関する取り組みについて、コメントを述べました。
※ 進行の都合により、次第順序を変更しました。

■会議の経過

次第 1 (事務局)	開会 20名の委員が出席。2名が傍聴手続き。
次第 2 (C副委員長)	あいさつ 皆さんこんばんは。 師走に入りまして、本当に寒くなりました。引きこもることに慣れてしまったこの1年半なので、さらに出るのが億劫になった方がいるかもしれません。頑張っ出ていただいて本当にありがとうございます。 今日で第8回目の検討委員会となります。振り返りますと、6月8日に第1回があり、6カ月弱という日が経ちました。これだけの委員の全ての発言を文言に盛り込むという作業は厳しいものがありました。その間、関連して正副委員長と事務局との作業部会で、皆さんの意見をどう取り込むかということに関しては、非常に時間を掛けて埋め合わせをしていったつもりです。 今日、チェックをしていただくわけですが、自分の言ったことが入っていない、という方がいるかもしれません。両論併記、あるいは「など」という表現、両論併記でも書く順番によって初めに書いてある方が優先順位が高いのか、とか、誤解を招いてはいけないため、そのようなことにも苦労しながら文言を取り入れたつもりです。皆さんの発言とは違う言葉になっているかもしれませんが、その辺りお許しいただきたいと思います。 生涯学習というのは、本当に大きな柱と言いますか、我々の生活にとってどれだけ重要なものであるか、改めて6カ月で学んだような気がします。 振り返りますと、日本の近代の教育は、今から約150年前、明治5年の学制発布に始まると言われていています。当時、フランスの教育制度を真似て、国民は6歳になったら学校に通う、ということからスタートしました。それから90年経って、同じフランスの教育学者が生涯学習という考え方を出しました。これは6歳から教育が始まるのでは遅い、あるいは学校だけで教育、学習が終わるのではない、ということで、一生涯を通して学び続ける。そういう社会を作っていけないと駄目なのだ、という考え方です。だから6歳より前から教育・学習は始まっています。これは子どもの学習というよりは、親の学習です。 ゴールについても同じです。今や人生100年時代。人生の大部分は学校教育以外の時間の方が圧倒的に質・量ともに重要です。だから、学制発布のときは、立派な小学校を作りましょう、ということでスタートしました。それが現在では生涯学習、学校教育以外のものがより大切になってきましたので、今や立派な生涯学習センターを作りましょうと、キャッチコピー、キャッチフレーズが変わってきています。私達が時代の流れをどれだけ理解してのるかは未だ心許ないところもあるかもしれませんが、少なくともそういう形で取り組んでいかないと、今や地域が消滅してしまう、そんな時代になろうとしています。新しい生涯学習社会を作っていけないと地域が持たない、というところまで来ているわけですから、そういった危機感を持って私もこの会に参加してきたつもりです。 今日は車座になって、全員を見ながら話をさせていただいて、今日がもう言い切るラストチャンスです。まだ言い足りてないところはどんどん出していただいて、そ

	<p>れがどこまで盛り込めるかは、少し心苦しいところもありますが、皆の意見をしっかりと出し切って、今日の答申のまとめについて、ご理解を得たいと思います。ひとつよろしく願いいたします。</p>
<p>次第 3</p> <p>(委員長)</p> <p>(事務局)</p> <p>(委員長)</p> <p>(A委員)</p> <p>(事務局)</p>	<p>議事 ・ 建設基本計画 答申書について</p> <p>皆さんこんばんは。</p> <p>副委員長の方から挨拶もありましたけれども、本当に長丁場、ご苦勞様でした。先日、11月30日に作業部会を行いまして、最終的な答申案に向けて議論をいたしました。文言の中には反映されていない言葉があるかも分かりませんが、よく見ていただくと、透かして見ていただくと入っています。それから余白にも行間にも、今日までいただいた意見が全部入っています。では、どのように次に繋いでいくかが、これからのポイントです。これで終わることはありません。あくまでも入り口を少しこじ開けた程度です。これからのスケジュールもお手元の資料にあります。そういうスパンで今日を捉えていただきたいと思います。</p> <p>そして、車座のような形式で今日座っていただいたのも、この委員会の顔ぶれをもう一度皆さんで確認し合って、あのときああいう議論をしたな、ということが次に繋がるようにこういうロケーションをつくりました。そして今日は、この建設基本計画を答申したいと思います。勿論それぞれの意見はあると思いますが、その節は取りまとめの方でよろしくご理解いただきたいと思います。それでは修正箇所等について、事務局から説明いたします。</p> <p>(資料1に基づき答申書案の修正箇所を説明)</p> <p>ありがとうございました。事務局から修正後の最終案の説明がありました。この内容でいかがか、ということです。</p> <p>ここまで最終的にまとめるのに、本当に作業部会でも長時間、喧々諤々と、この意見はどうだ、どう反映させるのか、確かにそういう作業は、やってみると難しいです。でも皆さんの思いを少しでも反映させるということで、正直、苦勞した結果です。</p> <p>充分ではないかもしれませんが、こちらで答申するという前提でご意見をいただきたいと思います。</p> <p>内容的なことは充分議論したので、誤字と思う部分だけ確認させていただきたいと思います。</p> <p>資料編12頁で、検討委員会の設置要綱があります。第1条で、『多可町生涯学習センター（以下「学習センター」という。）』としてあります。今回の答申で1頁目、『多可町生涯学習センター（以下「生涯学習センター」という。）』となっています。委員会の設置要綱では「学習センター」になっていて、答申では「生涯学習センター」となっているのは、何か意図はありますか。</p> <p>意図はございません。実は平成25年にできた設置要綱から「学習センター」という言い方になっており、改正で直すことを検討しましたが、省略語で特に深い意味はないため、直さずにここまできております。</p>

(A委員)	<p>ありがとうございます。</p> <p>8頁目の一番下です。『「多可町生涯学習まちづくりプラザ」へ変更することを提案します』。前回の会議で「多可町まちづくりプラザ」で、「生涯学習」を取るような話があったと記憶しています。反映されるか、されないは別にして、その点に関して事務局から何かありましたらお願いします。</p>
(委員長)	<p>これは私から少し説明いたします。</p> <p>「生涯学習センター」という仮称でしたが、これは「生涯学習まちづくりプラザ」に変えていただきたい、という提案になっています。生涯学習をどう捉えるかによりますが、一人一人の乳幼児から亡くなるまで生涯を通して学ぶ、ということが縦軸で生涯軸になっていますが、生涯学習とは様々な学びの中で気づき、学び、それをどのように実践に結び付けていくかという、体系化した学びになっています。個人一人一人が学んだことで完結して終わるのではなく、それをどのように地域に繋いでいくか、という水平軸と、先の縦軸をうまく統括していくのが生涯学習の世界です。従来は一人一人が学ぶだけ、ということに非常に力点が置かれてきた日本の生涯学習ですが、それを地域の中でどのように一市民として生かしていけるよう捉えていくのか。そういう施設・拠点として捉えると、やはり学んだこと・気付いたことが、まちづくりにつながっていく必要がある、ということでこういう名称にしました。</p> <p>そして、これからの多可町の大きな課題は、やはり持続可能なまちづくり、多可町をなんとか維持していきたい、そして人口減少社会の中でも一人一人が豊かに暮らせるように、誰一人取り残さないようにするには、まちづくりの視点が欠かせません。だから、生涯学習まちづくりプラザの中で、多くの方が交流し、情報を交換し、それを共有する中から、それが学びになり、気づきになり、まちづくりになっていく。現実には、今ここに集まっていた各団体の取り組みの情報についても、充分には共有はできてないと思います。それぞれにやっていますが、それがこのプラザに行けば、一目見たらあの団体はこういうことを行っているのだ、ここはこういう課題があるのだ、ということをつなぐチームとして捉えていくことが大事になってくると思います。多可町は、その拠点を作ろうとしていますので、「生涯学習」「とまちづくり」が連携していかなかったら成り立たないということで、この名称にさせていただきたいと思っています。ご理解賜りたいと思っています。</p>
(A委員)	<p>ありがとうございます。最後にもう1点だけ。9頁上から4行目、「10. 運営手法・方針」の1行目です。『総合計画の目標に掲げる「協働による自主自立のまち」』を括弧でくくっていますが、こちらは「まちづくり」で括弧を閉じると、どちらが正解ですかね。</p>
(事務局)	確認します。
(委員長)	総合計画がこの通りであれば、これで良いですか。
(A委員)	<p>問題ありません。私個人としては「まちづくり」で括弧を閉じるとは思いますが、誤字であれば意味合い的には何も変わらないと思います。</p>

(委員長)	他にありませんか。
(B委員)	5ページの基本理念です。基本理念は非常に大切な言葉だと思うのですが、「出番がある」、「生涯にわたって知識を深める」、「居場所」、「集える場」という言葉を読んだときに、それぞれがどこに掛かるのか、何が作りたいのか。今の生涯学習とまちづくりとでこの基本理念が、この1文で表していると言われても、なんとなくストレートに入ってこないように感じます。
(委員長)	委員はどのような文言がいいと思いますか。
(B委員)	私は「生涯にわたって知識を深め、みんなに出番がある居場所や集える場の整備を目指す」こういうのがいいかな、と思います。 言葉がどこに掛かっているかです。答申書(案)では「みんなに出番があるように」、「生涯にわたって知識を深める」ということで、そのための「居場所と集える場所をつくる」と。この「居場所や集える場所」は、「みんなに出番がある場所」ではないかと思っているのですが、いかがでしょうか。
(委員長)	皆さんはいかがですか。ご指摘は、後段を前段に持ってくるということですね。
(B委員)	そうです。「地域社会の中で、生涯にわたって知識を深め、みんなに出番がある居場所や集える場の整備を目指す。」 皆さんいかがですか。副委員長いかがですか。
(B副委員長)	作業部会の方でも理念ということで、生涯学習の理念はもう決まっているのです、考え方は。C副委員長が言われましたように、1つは、人生は1回しかないよ、学びなのだ。今回の場合も、その学びは何で大事か、というのが理念なのです。更に、まちづくりに広げていく。そのための中心になるところです、ということで考え方の整理をするのですが、どうしても堅くなっているところはあると思いますが、学びがあって、その学びを持って集まって、そしてそれを広げていく、そういう流れが、その水の流れからきているのです。だからそれを言葉に表すとしたら、基本理念は流れだと思って、私たちはこの流れ、文脈にしているのですね。
(B委員)	こういう流れで生涯学習っていうことが。
(B副委員長)	というのが、基本的にはあるのだと。今は更にまちづくりのほうに継続する、そういうふうになっています。だけど、一緒のことですけどね。
(B委員)	私の方が少し狭く考えているのですね。
(B副委員長)	狭いのではなく、言葉の流れが違うのだと思います。

(委員長)	決して狭くはないです。
(B副委員長)	多可町が目指すのは、とにかく「持続可能なまち」、だから「まち」。そのために力を結集しましょうよ、ということです。結集するためには集まらなければならぬ。その施設として建設される、形に見えるのがこのプラザです。その形ができたところに、みんなの出番がある居場所があるので、みんなの出番をと、見えるようにするためのものですよ、ということです。建設基本計画策定委員会だから作らなければいけない。
(B委員)	「あるように」、そういう「場所」をつくりましょうと。
(B副委員長)	だから、ここの流れと合わさって、前の状態に巻き戻って、集約しとるが一緒です。ここが、これだけ見たらおかしいけど、ここの流れを見ていただいたら。
(B委員)	おかしい、というわけではなくて。おかしかったら訂正すべきだと思いますが、「みんなに出番があるように」まず場所を、集える場所をつくります。
(B副委員長)	活躍できるように。
(B委員)	それで、生涯にわたって知識を深めるための居場所。
(B副委員長)	「出番をつくろう」と思ったら知識がないと駄目でしょう。
(C副委員長)	<p>「みんなに出番がある」というのを最初に持ってきているのは、やはり学習主体である地域住民の舞台、活躍する舞台というものを最初に出しているのです。委員が言われたように、「あるように」という日本語の表現が曖昧に捉えられるのですよ。「チャンス、機会」という意味で使っているのだけれども、文脈の中で取りようによると、願望を言いたいのか、仮定を言いたいのか、「あるように」という言葉が色んな文法的な中身がありますから、そういう意味では、委員の仰った方がより正確な、論理的な文章になっていることは間違いないのですね。</p> <p>ただ、主観的に、「学習主体である地域住民の出番」をまず「つくる」ということを強調したいがために持ってきているのですね。だから「あるように」という表現が曖昧になってしまっているのは確かです。きちっと伝えられたらこれでいいだろうし、論理的に間違いなく伝えようと思ったら委員の語順のほうが、「あるように」という言葉の意味することがより正確に伝わるのは確かですね。</p>
(B副委員長)	「あるように」にもし手を入れるのであれば、「をつくるために」としたら明確になるかもしれません。「出番をつくるために、生涯にわたって」。でも、それをする、堅くなってしまうと思います。
(B委員)	そうですね、狭く限定的。
(B副委員長)	そういう感じもしますね。柔らかい感じの方が。

(委員長)	それであれば、このまま良いですか。
(B委員)	良いです。
(委員長)	いま副委員長が言われたように、委員が発言されたことは皆に染みしています。
(複数)	染みしています。
(B委員)	ありがとうございました。
(委員長)	それでは、委員から指摘いただきましたが、この原文でいかせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。では次をお願ひします。
(事務局)	先ほどのご指摘に関して、多可町総合計画の基本目標6が「協働による自主自立のまち」という項目で、ここから引張ってきたものです。このため、「まち」で括弧を閉じるということで、ご理解をいただきたいと思ひます。
	(答申文(案)を配布)
(事務局)	それでは皆さんに承認いただきましたので、答申書は今の内容でいかせていただきます。いま配っていただきましたが、答申書にこの文書を添えて答申してはどうかと思ひます。詳細は答申の中身を見ていただくとしまして、特に2つの点「1. 施設の名称」「2. 運営方法」について提案するという文面にいたしました。いかがでしょうか。
(委員長)	読んでくれますか。
(事務局)	はい。資料2「(仮称)多可町生涯学習センター建設基本計画の策定について(答申)」という文書です。
	(答申文の読み上げ)
(委員長)	よろしいですか。では、この2点を提案させていただきます。
	答申書と添える答申文を見て確認いただきました。
	町長に来ていただいて手渡すのですが、私からの1つお願ひがあります。従来、こういう委員会では、委員長・副委員長が町長に渡すのがパターンなのですが、私はそれに異議を先日申しました。少し前振りが長くなりますが、今回の委員会で私は色々なことに気付かせてもらいました。30年前、ベルディーホールの立ち上げから準備・運営を、40歳前後の若い人たちに委ねた、あれはすごいことでしたね、と指摘を受けました。30年前、私はその最前線にいました。40歳くらいのときです。そういう若者に委ねた町というのはすごいな、ということをお願ひしましたが、私から見ると当たり前にお願ひしていました。しかし、今になって指摘を受けると、やはりすごかったな、と思ひました。専門性を持った若い人たちが中心になって

	<p>ルディーホールの立ち上げ、基礎を作ったのですが、今このプラザを今後どうしていくかを考えるとき、やはり若い人、別に年配の人がいけないという意味ではなく、本当にこの町を今から背負っていく若い人たちに委ねることがこの機会である、ということをつくづく感じました。ですから、この委員会は、そのことを町長にしつかりと伝えるセレモニーでなければいけない、と思いました。</p> <p>そして、この町の人口ピラミッドで一番の課題は、30代の女性の戻りが悪いことです。その数値が大変悪いのです。ですから町の課題としては、やはり女性に魅力のある、ときめくことができるまち、これが今1つの課題になっています。勿論行政はそれなりに努力をしていますが、我々もそのことをよく認識して、若い人たちに支持される町をつくらなければならない。先日も消防団の若い人たちと色々議論しましたが、みんな一生懸命、町のことを考えてくれています。そういうことを形にすることも、この委員会は大事だと思っています。敢えて町長に手渡していただくのは、まだ本人に言っていませんでしたが、C委員は欠席しておりますが、D委員とE委員、子育て世代の若い人に渡していただきたいと思っています。皆さん拍手をお願いします。</p> <p>(一同) (拍手)</p> <p>(委員長) 承認いただきました。</p> <p>(事務局) (町長を呼びに行く)</p>
<p>次第5</p> <p>(事務局)</p>	<p>今後の予定について</p> <p>(今後の予定を説明：要約)</p> <p>町長が来るまで、今後の予定をご説明いたします。</p> <p>答申をお預かりして来週町議会に報告します。</p> <p>その後、こちらで答申を確認して基本計画(案)とします。答申を尊重したのになります。その後、議会に基本計画(案)を報告します。2月予定で広く町民のご意見をパブリックコメントで伺います。その間に地域協議会・住民への説明会を行います。皆様も一住民として意見を述べていただくことができます。3月にパブリックコメントの結果を議会に報告し、基本計画と位置付けます。</p> <p>今回の答申で一段落しますが、皆さまには引き続きお知らせしますので、よろしくをお願いします。</p> <p>町長が参りましたので、答申をお願いします。</p>
<p>次第4</p> <p>(委員長)</p> <p>(委員長・D委員・E委員)</p> <p>(町長)</p>	<p>答申</p> <p>(答申文への署名)</p> <p>(答申文の読み上げ)</p> <p>(答申書を手渡し)</p> <p>お預かります。</p>

(一同)	(拍手)
次第6	閉会
(委員長)	無事に町長に答申をお渡しできたので、最後に皆さまから短めに一言お願いしたいと思います。
(F委員)	今回の計画を通して、本当に皆さま方にもお世話になって、こうして答申書を手渡しできましたこと、本当にありがとうございます。これからもますます発展するよう、よろしくお願いします。
(G委員)	長い間、本当にご苦労さまでした。何回休もうかと思ったか分かりません。本当に大変な委員会だったと思います。1つだけ、先ほど言っていただきましたが、「多可町生涯学習まちづくりプラザ」ではなく、「生涯学習」の文言を取って欲しかったなと思います。
(E委員)	今回、生涯学習センターの委員会に参加させていただいて、まずそれが私の1つ学習になったかなと。良い経験になったなと思ったので、より良いものになっていけばと思います。
(B委員)	前回思いましたが、最後の最後まで変なことを言って、言いたいことを言ってしまいました。そんな中でも皆さん非常に受け入れてくださるとい、最後本当良い会議になった、という印象を持っています。やはり建設されて生涯学習センターができると思います。そのときには皆さん一生懸命使いましょうね、ということを上上げて、皆さんにお礼の言葉にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
(H委員)	私はこの図面を見たときに、平屋・1階だけの感じで見させてもらいましたが、2階があれば便利かな、と思って。一言最後に言わせていただきました。ありがとうございました。
(I委員)	2つ述べます。このあとパブリックコメントを求められると思います。前の総合計画等でもコメントを寄せられる人が偏って、少数しかいない、ということがあったので、パブリックコメントを求めていることをもう少し周知していただくような、多様な意見を吸い上げていただくようなことをして欲しいです。もう1つは、やはりこれだけの建設が決まったら忙しくなるので、町もそれなりのリーダーシップを執れるような人材を、建設が決まってから2年～3年掛かるので、その間にちゃんと育てていって、人が主体となって運営の基本はしていただく、という覚悟を持ってやっていただきたいと思います。
(J委員)	7年前から、今回もまた参加させていただきました。前のようにポシャらないようお願いしたいと思います。これから後は、今から使われる方の若い人の意見を十分に聞いて、運営なりやっていっていただきたいと思います。ありがとうございます

	ました。
(K委員)	この生涯学習センター検討委員会で色々な人の意見を聞く中で、私もすごく勉強になりました。色々な価値観があるということも沢山感じることができました。最後に、やはり女性が少ないことをすごく感じたので、これから運営に携わる会議等を持つ中で、女性の方が沢山この場にいるように、と願っております。
(L委員)	<p>私が言いたいことは、学ぶ、集う、結ぶ、そして地域づくり、それがまちづくりにつながるという社会教育、生涯学習社会の理念の1つです。その理念の象徴である施設ができますので、これからどんどん人づくりしていただきたいと思います。いま公民館が無くなっておりますので、私は非常に寂しい思いをしておりましたので、ぜひこの場所が盛況になるように、若い人、特に30・40代くらいの方を中心に良い施設ができますように願います。「日々は生涯学習」、これは私のモットーです。そういったところで今後ともよろしく願いいたします。</p> <p>最後に1つだけ質問ですが、パブリックコメントは2週間程度を予定されているのですか。</p>
(事務局)	期間は2週間前後になると思います。
(L委員)	2週間前後ですね。先程も仰いましたように、パブリックコメントが沢山集まりますように、よろしく願いいたします。
(M委員)	本来は校長が出席すべきところを代理として出席し、こういう場に加わらせていただきました。元々私は国語教師でしたので、教頭という立場を抜きにして色々なことを勉強させていただきました。この前どこかで目にして「良い言葉だな」と思ったものが、「お金はいつかなくなる、物はいつか壊れる、しかし身に付けた教養はいつまでたっても誰からも奪われることはない」という非常に心に響いた言葉がありました。そういう精神や心が息づいているような施設になればと、私たちも応援させていただきたいと思います。どうもありがとうございました。
(A委員)	町長、何回も何回も集まりました。もうどうなるか、というくらい集まって、委員6人のLINEグループまでできて、会議以外の夜中にピコピコ通知が鳴るのです。それくらい真剣に悔いのない委員会ができました。町長もよろしく願いします。また、議員の方もよろしく願いいたします。ありがとうございました。
(N委員)	皆さんに出会えて、本当に良い機会で、良い勉強をさせていただきまして、ありがとうございました。この答申書には、子どもたちの夢と希望がすごく詰まっています。委員長が言われたように、全部詰まっていると思います。私も自信を持って答申できるので、是非この生涯学習センターを建設していただいて、そこで子どもたちが利用している姿を早く見たいと思っています。ぜひ建設の方をよろしく願いします。皆さん、ありがとうございました。
(O委員)	先程の委員長の発言で少し驚いたことがありました。生涯学習センターに懸ける思いはそこですが、生涯学習、まちづくりとで、生涯学習というのは縦であると。

そして、まちづくりは横であると。そして、縦づくり、縦の方向は皆が一生懸命やっているが、それが連携していないと。このチームはワンチームで、それが学習センターである、という話を聞いて、そこにポイントがあるのか、と思いました。実は正直言って、今日初めて、そういう思いだったのか、と。そのぐらいの気持ちで生涯学習センターの位置付けを聞きました。私自身の認識が甘かったと思いますが、両副委員長の話もそういうことでしたので、非常に納得した感覚です。この生涯学習センターの基礎づくり、連結・連携がもう今後の課題だな、ということ強く思って、非常にありがたかったです。今後ともよろしくお願いします。

(P委員)

合計8回の会議でしたが、皆勤というわけにはいきませんでした。その中で本当に色々な方々からのご意見で、「そうなんや」と納得するところもあれば、「ちょっと違うのでは」と思うところもあったりしながら、生涯学習課の事務局がそれらの意見をこの答申にまとめていくのは大変だったと思います。

それと、何回も委員長・副委員長が集まって会議をしていただいたと思いますが、本当に敬意を表したいと思います。皆さんから出たこの意見を本当にきれいにまとめていただいたと思っておりますので、本当にこの8回凝縮された会だったと思っています。本当にありがとうございました。

(Q委員)

おはなしサークルで、地域の子供たちに絵本を読んだり紙芝居を読んだりする活動をしています。こういう機会に意見をこれまで一度も言ったことがなく、答申が終わってしまったのですが、最後にすごく気になる箇所が出ました。答申案の9頁の運営方針『「協働による自主自立のまち」づくりを進めには』と書いてあるのですが、誤字が気になって肝心のお話の内容には頭がいかなかったのですが、皆さん色々難しい話を一生懸命考えられているな、って思ったのと、国語の勉強を今日はさせていただいたような気がしまして、私はちょっと頭が痛いのですが、個人的にはあまり難しいことを考えたりするのは、考えたくない方なのですね。どっちでもいいのじゃないか、表現は、と思うようなことがよくあります。

それから、公共の図書館に関して言わせていただけるならば、指定管理というのはそぐわないと私は思っています。はっきりと町の直轄の運営にさせていただきたい、というふうに思っています。それから、図書館も、それからまちづくりプラザも、どちらにしても職員が生き生きと働けるような場所・施設でない限りそこへ誰も行きたがらない、行きたいと思うような施設にならないと思います。建物は建て始めたところからどんどん古くなっていきますが、そこに働く職員は年を取っていきますけれども、人間はどんどん成長していくものである、と私は思っていますし、信じたいです。それが町の人たちによっても職員は育てられていくというふうに思っています。ですから、職員をどうぞ大切にさせていただきたい、というふうに、町長さんにはお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(R委員)

老人クラブの会員は、体の機能は衰えていますが、心と気持ちは柔らかに持って取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

(D委員)

答申の役割は、突然のサプライズだったのでびっくりしましたが、この度は大役をありがとうございました。答申の内容については、皆さままで充分協議いただいたので私から申し上げることは何も無いですが、この会議の体制づくり、事務局の方

含めて、皆さまに本当にお礼を言いたいと思っています。他の委員も仰っていましたが、本当に受け入れてくださる。どんな意見も皆さん1回聞いてもらって、「でもそうじゃないよね」とか「こっちのほうが良いのじゃない」という、しっかりとした議論を交わせる場だと思って、非常に嬉しく思いました。

ヤイヤイ言うというか、最初の会議のときに「変なことも言うかもしれません、アホなことも沢山言うと思います」と言ったときに、委員長が「そんなん気にせんとどんどんいっぱい言ったらいい」って受け入れてくださいました。なので、色々勇気を持って小グループのワークショップも発言しやすかったですし、こういう会議のあり方がもっと役場全体の会議とか住民有志の会議とか、色々なところで本当に色々な人が意見を言えるような雰囲気づくり・体制づくりが進んでいったら良いなど、別のところで考えておりました。

私は、まだ一応30代女性という若いグループに入れてもらっているのですが、ヤイヤイ言うことが役割だと思っています。それを皆さまがまとめて、答申を作ってくださいました。それぞれの役割分担がきちんとできた会議だったと、すごく僭越ですが思っております。また色々なところで皆さまと議論できることを楽しみにしております。長くなりました、ありがとうございました。

(B副委員長)

皆さんご苦労さまでした。私は生涯学習推進協議会から出ていますが、多可町が合併して15年・16年。2段階・3段階のときが来ているのだと思います。3年前には生涯学習推進基本計画の答申ができております。昨年度は教育ビジョンという大きなものが改訂されました。そして今回、こういう形で益々進んでいくと思います。合併したときから色々な経験をしながら、今やっていますが、先の経験はまだ見えない。ただ私が思うことは、今回新しいモデルとして、残っていくものもあります。この残っていく建物も、できたときは色々な役割を持ってできています。

例えば幼稚園もできたときは、ケヤキの幼稚園ということで、加美の幼稚園でした。一時なくなりました。でも、また良いものを再生するために、環境をつくり、生き返りました。残念ながら、生き返れないものもあります。施設は施設なりにそのとき一生懸命頑張ってたつくった。人間と一緒にです。皆さんのために頑張ろうと思って施設も頑張っていたのですが、いかんせん時代などの色々な事情で老朽化します。しかし、スクラップも1つの方法だと思います。やっぱりスクラップ・アンド・ビルド。ビルドが後に来るのですよね。

だから残るものも、やはり未来を見据えて、なんとか再生できるような形はできて、次のものに展開できるようにしていただいたことがあります。図書館は今度なくなりますが、あそこも色々。ありがとうございました。

(C副委員長)

この6カ月弱、本当に皆さんご苦労さまでした。平成24～25年の段階からタッチされている方もありますが、その方は8～9年に渡る長い間の審議、本当にありがとうございました。今日、最後のセレモニーで、やっと新しい地平に来たな、という感を強くしました。若い女性2人が答申の1・2番ときっちり読み上げて、町長に手渡していただきました。これからはその続きですね。と言いますのは、私、三十数年前にベルディーホールを立ち上げ時に、やはり言いたいことをどんどん言いまして、当時の町長が言ったことをそのまま実践、運営の中でもしっかりやれよ、ということで委ねられまして、そのときのエネルギーが、モチベーションが今に至るまでなんとか続いている。そんなことを今、強く感じております。

やはり、これからあるべき姿として、若い方・女性の方、30・40代中心に、しかも女性が半分ぐらい入っていただく、そういう組織の中でこれからのエネルギーを高めていって欲しいな、と強く思いました。本当にどうもありがとうございました。

(町長)

本当に短い間にたくさんの会議を行っていただきまして、答申を私に出していただきました。本当にありがとうございます。

まず、今もお話がありましたけど、前回8年前にお世話になっておきながら、しっかりした形にできなかったこと、今日改めてお詫びを申し上げたいと思います。色んなやり方について我々の不手際があって、形にならなかったということについては本当に申し訳なかった。あの時も非常に熱い思いで考えていただいた、それをいただいたのに形にできなかったことについては、本当に改めてお詫びを申し上げたいと思います。

今日を通して、新たにこういう形でいただきました。本当に数多くの会議を開いていただきまして、いま皆さま方の話を聞かせていただいても、本当に熱いものが伝わってきましたし、私がこれから取り組んでいかなければならないことが、しっかり見えてきたような気がします。

生涯学習については、私の政策の中心において、頑張っってこれから4年間やっていきたいと思っているところでございます。なんとかこれを形にさせていただきたい、というふうに思います。生涯学び続けられる、生きがいあふれる町というのをつくっていききたい、と思っております。

そして、運営のことも最後にコメントの中でいただいております。そこら辺についても、町の方で新たな施策として提案をさせていただきますけれども、その際にも必要があればご意見を伺わせていただきたい、というふうに思っております。「住民主体のまちづくり」言うのは簡単なのですが、なかなかできません。今日このメンバーの方々の今この場で入れていただいて、ちょっとその1つができたのではないかな、というふうに思います。このようなことで私も学ばせていただいて、行政に当たらせていただきたいと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

(委員長)

6月にこの委員会ができて、私は正直言うと、委員長、委員も受けたくなかった、ということはありません。でも受けた以上は答申の日まできちっと全うしたい、と。そして、やはり住民が主体の、そして一人一人の思いが反映したものをつくりたい、と。でも、やってみないことには分かりません。委員会を開くたび、作業部会をするたびに、いつも不安の中で、最後までできるのか、と思って、いつも考察していました。それが今日、何とか形にできました。本当に皆さんお世話になりました。特に副委員長お2人には作業部会で、専門性をお持ちになっているお2人ですから、適切なアドバイスを事務局にさせていただいて、今日を迎えることができました。それも併せてお礼を申し上げます。そして皆さんにも、本当に真摯な討議をいただきましたことを、深く感謝申し上げます。

最後に私が一番言いたいことは、生涯学習まちづくりプラザが、やっぱり一人一人の住民の住民活動が、社会資本化される拠点にならなければならない、ということです。まちづくりをやっていると、よく「ソーシャルキャピタル」という言葉が出てきます。従来は都市計画とか都市基盤整備のハード面で使ってきた言葉ですが、それがコミュニティーや人と人のつながり、というようなソフトの部分で使わ

れるようになりました。そのソーシャルキャピタル、社会関係資本化を、住民活動が集積されていかなければ、バラバラではいけないのです。そういうことが一目に分かる拠点が要る、ということで「生涯学習まちづくりプラザ」を建設していただければ、この町の将来・ビジョンが明確になるのだと思っています。

それから、もう1点あります。今日デザインの絵がありましたが、これも作業部会で少し話をしたのですが、中央公園の中のいずれかを候補地をとっています。子育てふれあいセンターの一角にコークラボを造っています。窓が広いところがあって、センターと中央公園のロケーションにすごく心が安らぐのです。特にあそこには、大きなケヤキがあります。風が渡ると揺れていき、雲が通ります。そして子ども声が聞こえます。そういう中央公園の中に施設ができたら、建物をデザインするときに、大きな窓からそれが見える、そういう景観を取り込めるデザインを是非行って欲しい、と事務局に伝えています。やっぱりそういったところに行ったらホっとする。そういうところで乳幼児からおじいちゃん・おばあちゃんまでが景観をボヤーっと眺めながら、そういう施設を是非造っていただきたいと申しています。

今後そういうことも含めて、皆さん方の意見を反映できるように、ハウスからホームに、本当にマイホームになるようなプラザにしていきたい、と思っております。

個人的には今日、若い世代にバトンタッチができて、私としては役割を終えたと思っております。本当に長い間、ありがとうございました。

(事務局)

皆さん、どうもお世話になりました。本当にありがとうございました。

これもちまして本日の会議を終了させていただきまして、答申の方お預かりいたします。どうもありがとうございました。